

日本の金石文④ 「道澄寺鐘銘」 延喜十七年（九一七）

図版稍「縮小」 天地33センチ

道澄寺者從三位守
大納言無右近脩大
將行皇子傳藤原
朝臣參議左大臣藤原

図②

道澄寺鐘銘



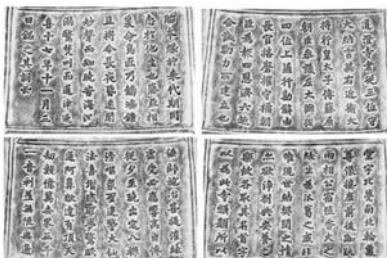
馬鳴寺根法師碑



道澄寺鐘銘



馬鳴寺根法師碑



図⑤



図③

図④

翻刻



原刻



大學三年の夏に奈良から和歌山への旅の途中に、栄山寺を訪れて初めて『道澄寺鐘銘』を知った。翌年、卒論のテーマとしてこの鐘銘を取り上げ、再訪して寺の許可を得て、手拓した（図②）。そして近くにある摩崖刻石『宇治川の涅槃碑』を見るために河床まで降りた覚えがある。ほぼ四十年以上前のことである。『道澄寺鐘銘』は『神護寺鐘銘』と共に日本の鐘銘の双璧をなす名品である。菅原道眞の撰文、小野道風の筆との伝承されるが、ともに根拠がない。藤原道明と橘澄清の二人が、四恩に報いるために創建し、各の一字をとり道澄寺と称したと伝えられる。鐘銘は、四区に分けられ、一区八行、一行八字からなる。一字の大きさは、三センチほどであり、陽刻である（図⑤）。起筆は鋭く、力強く、重厚な書風を示している。一見すると六朝楷書の風に近いと感じられるが、文字の構成は整い、唐の楷書に属する。起筆や点画の太さなどから、六朝の『馬鳴寺根法師碑』に一脈を通じるところがある（図②）。江戸時代には、書の手本として好まれたのであろうか、数種の翻刻法帖拓本が作られている。比較しなければ判別し難いが、原刻と丁寧に対照すれば、その相違は明確である（図④）。時には翻刻拓本が、原刻と誤認されて紹介されているものがある。

書道芸術院 平成の群像 (2014)

七言句



書の軌跡50年

私が福井県の高校を卒業するにあたり父は、大阪にいる長兄をたよって、大阪で就職することを希望し、私は大阪梅田の近くの会社に就職しました。当時私はバイオリンを習っておりましたので、社長さんが労音オーケストラを紹介



小島小汀

して下さり、週1回、中之島公会堂で練成会をいたしました。

当時、終戦後の若者達のサークル活動は盛んで、住居のある東淀川区では文学サークルに入りました。

そこで中学校の教師をしておりました小島白洲と出会い、結婚したのは私が、21才の時でした。

まず白洲にいい渡されたこと。白洲の恩

師であり、書道家の川崎梅村先生のもとで書道を習いなさいと言われ、音楽と文学が好きな私が何故?と思ひながらも素直に從いました。

臨書を教えていただく頃には、書道のお深さもわかり、筆触の楽しさもおぼえました。

私は書道芸術院漢字部に所属しており展覧会出品作はほとんど多字数です。

創作している時の書道に対する情熱は身体のどこからほとばしり出てくるのでしょうか。

白い紙の上を走る筆と墨のからみ合い。筆触と構成のからみ合いの面白さなのでしょうか。

これからは命ある限り、おだやかに書の道を歩みたいと思います。

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

辻井喬日中文化交流協会会长を
偲ぶ会しめやかに



黒井千次会長の
ごあいさつ

昨年11月25日ご逝去された日中文化交流協会会长辻井喬先生の協会主催偲ぶ会が本年4月3日、東京ホテルニューオオタニにて開催され芸術文化関係のみならず政財界、程永華駐日中国大使をはじめとする中国関係者など多数の参列者が集つた。

辻井先生はセゾングループの代表、実業家堤清一としてのご活躍の方が著名である。実業家と詩人・作家としての多方面でのご功績は驚嘆に値する。先生のご冥福を心よりお祈りしたい。後任には黒井千次先生が会長をご就任された。

昨年の政治経済環境から日中関係は厳しい状況が続いているが、この時期だからこそ芸術文化を通しての交流が大きな意味を持つことと思う。会員諸氏のご理解とご協力を願う。

日本白扇書道会と北京市書法家協会。

北京日報社の共催による「中日名家書法聯展」が3月27日、北京故宮の労働人民文化宮大廟にて開催され、開幕に合わせ種谷萬城団長、辻元大雲相談役一行が訪中、開幕セレモニーに続き日中間の書法交流をテーマにシンポジウムも行われた。シンポジウム発表者は日本側種谷萬城、辻元大雲の2名。中国側は中華詩詞学会名誉会長劉征氏ほか8名が意見を述べた。発表内容は北京晚报に掲載され有意義な交流であった。



労働人民文化宮大廟前にて

第66回毎日書道展始動

北京市内は悪名高いスマッギングに覆われマスクを離せなかつたが、欧阳中石、劉藝先生など老朋友との再会ができるがたかった。訪中団は北京から鄭州、洛陽、西安各地を訪問した。

2月の運営委員会を経て諸準備が進行し、4月16日如水会館にて事務局合同会議が開催された。総務部、審査部、陳列部など各事務局関係者が集い各部署に開催に向け打ち合わせを行つた。

実行委員長には近詩部理事の船本芳雲氏が就任、山中翠谷総務部長、中原志軒審査部長、渡部會山陳列部長を代表とする実行部隊が展覧会の成功を祈つて挨拶された。本院からも多数の会員が事務局に配属されており、ご協力ご支援をお願いしたい。

本院関係事務局主要役員

陳列部長補佐 田村鄭雲

かな部I類審査副部長 下谷洋子

漢字部総務副部長 半田藤扇

かな部陳列副部長 田子白嶺

前衛書部陳列副部長 山口仙草

第49回高野山競書大会へご協力を

すでにお知らせしたが恒例の高野山競書大会の作品募集が今月の20日から今まで行われている。半紙による子供から大人まで参加できる競書大会は本展ぐらいであろう。

高野山を空海弘法大師が開創され1150年を記念して1150人余による献書奉納が契機となり高野山書道協会が結成され、来年は開創1200年の節目を迎えるこ

ととなつた。本競書大会は協会の中心的な事業として継続してきた。この事業には本院先達の香川峰雲、種谷扇舟両先生はじめ多くの役員会員が協力、貢献している。

今回展審査長を辻元大雲が拝命し書道芸術院の皆様方のご協力ご支援を是非ともお願いしたい。募集規定などは審査会員候補以上の方にはすでにお送りさせていただいたが、必要な方は直接高野山競書大会本部までご連絡いただきたい。

* 高野山競書大会本部
〒648-0294

和歌山県伊都郡高野町大字高野山132
TEL 0736-561-2012

FAX 0736-561-5450
(直通)

春季書芸昇級試験実施

昨年から1ヶ月繰り上げて4月実施となつた春季昇級試験が行われた。応募数は3種受験科目のかな半紙と漢字

条幅部門が多く、上級者の意気込みが感じられた。ただ最高位への留置者が50%になり厳しく、原級での留置者が50%以上であり毎回挑戦されながら結果の出ない方もおられることは忍びないが、試験ということでご理解願いたい。

基礎力を問う課題内容であるので普段からの地道な学習と練習を心がけていただきたい。

現代詩文書
(二)
熊谷宗苑

小さな庭に、春一番に咲く白と薄紫の可憐な花、山野草の菊咲いちげが咲いている。その中にたつた一輪、東いちげが清楚な姿を見せてくれた。何年ぶりかの開花である。「出逢えてよかつたね」の心境である。

中でことばと出逢えた瞬間と同じようだ。「出逢えてよかつたね」である。そうして出逢えたことばを、この構成で、この紙・筆でと準備万端台整いざ船出（？）するもあえなく座礁・沈没の体たらく。筆の束、紙の山の中でもがき苦しむのです。

前衛書
(二)

私と書
高岡市といえば吊り鐘の銅器の町として、古くから知名度が高い。私の家も多少それに関係ある機械製作所で、

いつも仕事を追われています。
昨年の6月ポーランドへ、高岡市から派遣されて国際アートキャンプに参加して、自然や文化の紹介をしてきました。言葉や国境を越えた作家達の文化交流がなされて、自身の作家活動を省みる機会となりました。

ち、21世紀に息づく現代書を求めて真実一路、この道を極めて行きたい。

写真の作品は、ポーランド、コペルニクス大学で揮毫した作品です。この作品は、師、浜谷先生の制作造りを想起して表現した。ポーランド国旗の朱色を朱墨で表現し前衛書を理解して貰うと思ったけれど、充分に発揮できなかつた。しかし、理解されなかつても学生達からの熱い拍手に満足した。

大石仙岳



逢ったことばです。書の仲間が全てを失い故郷を離れたもののが望郷の想い断ちがたく戻ってきました。そんな人達のことを思うと涙が流れます。故郷の風はさやかです。

21世紀の書

— 私 の 主 張 —



ることなく、
これでもか、
これでもか
と追求する
厳しい道で
あることを
自覚して欲
しい。

25年6月 ポーランドにて揮毫

大石仙岳書

特集：第67回書道芸術院展

○審査員。漢字部主任・濱田尚川はじめ12名。かな部主任・善養寺紅風はじめ3名。現代詩文書部主任・山田梓江はじめ10名。篆刻・刻字部主任・清水翠径はじめ2名。前衛書部主任・三森慧香はじめ6名。

○無鑑査事務委員。漢字部主任・小林青峰はじめ12名。かな部主任・見越雪枝はじめ3名。現代詩文書部主任・大平邑峰はじめ10名。篆刻・刻字部主任・野登蒼山はじめ2名。前衛書部主任・上田和芳はじめ5名。

○一般公募作品について
優賞 入選作品のなかから審査して、準特選、佳作、褒状を与える。
○審査員。漢字部主任・飯田春香はじめ12名。かな部主任・平川静子はじめ3名。現代詩文書部主任・広瀬舟雲はじめ10名。篆刻・刻字部主任・小野澤旭堂はじめ2名。前衛書部主任・高橋小汀はじめ6名。
○評論家の眼は從来通り実施予定。

長、院展・学生展共通の部長、事務局長、事務局次長・前田龍雲、三浦鄭街のお二人にも出席していただいた。

○第67回院展、併催の第65回学生展の部員と日程について確認した。

○作品搬入

○一般公募出品数855点 去年比154点減。
○無鑑査出品数1074点 昨年比12点減。
○審査会員候補出品数776点 昨年比13点増。

○審査会員出品数493点 昨年比12点減。

○鑑別・審査

○一般公募と無鑑査作品の鑑別・審査が、平成26年1月11日(土)、12日(日)の両日、共和会館と書道芸術院事務所において行われた。
○無鑑査に対する院賞15点(漢5、かな1、現詩5、篆刻・刻字1、前衛3)
秀作290点を決定。入賞率40%

○一般公募に対する準特選50点(漢17、かな4、現詩17、篆刻・刻字3、前衛9)、佳作150点、褒状313点を決定。入賞率60%。入選342点。

○審査会員候補に対する特別賞選考が行われた。

下審査室で、16名の選考委員によって行われた。

各部より10%の枠で賞候補を選考。

更に1%に絞り、全体の選考対象作とする。選考委員による投票によって、各部ごとの序列を決めた上で、漢字から前衛書部までの5部門のトップ作を並べる。

べて最終投票。書道芸術院大賞にはかな部・松本泰子(前橋市)が輝いた。

更に書道芸術院準大賞5点(漢2、現詩1、篆・刻1、前衛1)白雪紅梅賞

10点(漢4、現詩4、前衛2)俊英賞63点(漢23、かな4、現詩20、篆刻・

刻字1、前衛15)の受賞作を決定。

○賞63点(漢23、かな4、現詩20、篆刻・

刻字1、前衛15)の受賞作を決定。

○第65回記念全国学生書道展

○第65回全国学生書道展は、北日本支局から九州支局まで全国の支局・総局から作品が寄せられ、25年10月31日(木)締め切った。出品点数は半紙の部が1万4788点、半切1/2の部が2058点。

○審査は平成25年11月7日～10日にかけて、種谷萬城学生展審査部長のもと、A賞審査員6名、A賞選考委員8名、

○中央審査員23名によって行われた。優秀作品が多く、一作一作にじっくりと時間をかけて審査。その結果、全国学

書部・小野寺聿源、水野大祐、前衛書

部・岩沢芳仙、前回までに昇格点数を満たしていた大友紅菴、田子恵疏、以上17名の方々は、26年3月14日(金)開催された理事会において、審査会員へ

の昇格が決定された。

今後のご活躍を祈ります。

○審査会員に対する書道芸術院春華賞

○審査会員に対する書道芸術院春華賞の選考が平成26年2月10日(日)都美術館地下審査室で16名の選考委員によつて行われた。

○審査会員に対する書道芸術院春華賞の選考が平成26年2月10日(日)都美術館地下審査室で16名の選考委員によつて行われた。

各部より20%の賞候補、更に1%に絞つて全員投票の結果、漢字部・半田藤扇(習志野市)が初の書道芸術院春華賞に輝いた。

なお書道芸術院春華賞候補作品の中から推薦作家展(会場アートサロン毎日)に次の5名の方々が選考された。

現代詩文書部・北嶋菁湖、漢字部・佐藤菜扇、かな部・須田清子、漢字部・小竹正高、前衛書部・八木惠晃

同時に秋季展選抜作家も選考された。

○第65回記念全国学生書道展

○第65回全国学生書道展は、北日本支局から九州支局まで全国の支局・総局から作品が寄せられ、25年10月31日(木)締め切った。出品点数は半紙の部が1万4788点、半切1/2の部が2058点。

○審査は平成25年11月7日～10日にかけて、種谷萬城学生展審査部長のもと、A賞審査員6名、A賞選考委員8名、

○中央審査員23名によって行われた。優秀作品が多く、一作一作にじっくりと時間をかけて審査。その結果、全国学

書部・小野寺聿源、水野大祐、前衛書

部・岩沢芳仙、前回までに昇格点数を満たしていた大友紅菴、田子恵疏、以上17名の方々は、26年3月14日(金)開催された理事会において、審査会員へ

の昇格が決定された。

今後のご活躍を祈ります。

○審査会員に対する書道芸術院春華賞

○審査会員に対する書道芸術院春華賞の選考が平成26年2月10日(日)都美術館地下審査室で16名の選考委員によつて行われた。

各部より20%の賞候補、更に1%に絞つて全員投票の結果、漢字部・半田藤扇(習志野市)が初の書道芸術院春華賞に輝いた。

なお書道芸術院春華賞候補作品の中から推薦作家展(会場アートサロン毎日)に次の5名の方々が選考された。

現代詩文書部・北嶋菁湖、漢字部・佐藤菜扇、かな部・須田清子、漢字部・小竹正高、前衛書部・八木惠晃

○第65回記念全国学生書道展

○第65回全国学生書道展は、北日本支局から九州支局まで全国の支局・総局から作品が寄せられ、25年10月31日(木)締め切った。出品点数は半紙の部が1万4788点、半切1/2の部が2058点。

○審査は平成25年11月7日～10日にかけて、種谷萬城学生展審査部長のもと、A賞審査員6名、A賞選考委員8名、

○中央審査員23名によって行われた。優秀作品が多く、一作一作にじっくりと時間をかけて審査。その結果、全国学

書部・小野寺聿源、水野大祐、前衛書

部・岩沢芳仙、前回までに昇格点数を満たしていた大友紅菴、田子恵疏、以上17名の方々は、26年3月14日(金)開催された理事会において、審査会員へ

の昇格が決定された。

今後のご活躍を祈ります。

○第65回記念全国学生書道展

○第65回全国学生書道展は、北日本支局から九州支局まで全国の支局・総局から作品が寄せられ、25年10月31日(木)締め切った。出品点数は半紙の部が1万4788点、半切1/2の部が2058点。

○審査は平成25年11月7日～10日にかけて、種谷萬城学生展審査部長のもと、A賞審査員6名、A賞選考委員8名、

○中央審査員23名によって行われた。優秀作品が多く、一作一作にじっくりと時間をかけて審査。その結果、全国学

書部・小野寺聿源、水野大祐、前衛書

部・岩沢芳仙、前回までに昇格点数を満たしていた大友紅菴、田子恵疏、以上17名の方々は、26年3月14日(金)開催された理事会において、審査会員へ

の昇格が決定された。

今後のご活躍を祈ります。

○第65回記念全国学生書道展

特集：第67回書道芸術院展

の表題で講話をいただいた。

表彰状の授与は運営委員長・辻元大雲はじめ財団の理事・監事が務めた。

毎日小学生新聞賞、毎日新聞社賞につ

いては、糸賀靖夫様にお願いした。

太田蓮紅学生展表彰部長、川島舟錦学生展揮毫部長にお礼を申します。

○陳列部

2月15日(土)陳列作業の日も記録的な

大雪に見舞われ、交通機関がマヒ。そ

のため作業して下さる方の集合がまち

まちで心配された。しかし準備もよく、

院展、学生成展、指導者作品展と膨大な

数の展示が順調に進み、午後3時には

予定通り記者会見を開催。

山口仙草部長、伊藤懷舟、知野洛水副

部長はじめ委員の方々のご尽力に感謝いたします。

○記者会見

毎日新聞社ほか報道関係、評論家の皆さんにお集りいただき、辻元大雲運

當委員長から資料に基づき、第67回展の概要を説明し、記者会見を行った。

○外部評論家の眼

書評論家・田宮文平先生、五島美術館・名児耶明先生には大雪の中をご足

労願い、それぞれが作品数点を取り上げ批評して下さった。短評は作品脇に掲示した。

○作品研究会

2月16日(日)午後2時より帝国ホテル富士の間において、書道

芸術院春華賞、書道芸術院大賞、書道

品をスライド映写。漢字・大野祥雲、篆

刻・刻字・後藤大峰、前衛・板垣洞仙

の先生方が解説を担当。最後に辻元大雲運営委員長が財団役員の作品を中心

に解説し総評を行った。

○表彰式

2月16日(日)午後3時より

作品研究会に引き続き、同会場にご

来賓・毎日書道会専務理事・糸賀靖夫様をお迎えし、表彰式を挙行した。

春華賞、大賞、準大賞は理事長より授与。以下の各賞は財団の理事、監事によつて授与。糸賀様には毎日新聞社賞

の授与とともに激励のご祝辞をいただきました。

最後に受賞者を代表して、書道芸術院大賞に輝いたかな部・松本泰子さんの謝辞があつた。

○祝賀懇親会

2月16日(日)5時半開宴。帝国ホテル孔雀の間を会場として行

つた。来賓としてお招きしたのは報道関係と評論家の方々。なお今年は大雪による交通機関の乱れから、やむなく欠席された方もあつた。寒い中、総勢538名の方々には出席していただき、大野祥雲常務理事の開会あいさつ。

○審査部

辻元大雲理事長の主催者あいさつ。

続いて、全日本書道連盟常務理事・事務局長・田中節山様、毎日新聞社事業

本部書道担当部長・堀内宏明様、書道

評論家・田宮文平様よりご祝辞をいた

だいた。乾杯は毎日書道会専務理事・糸賀靖夫様のご発声で開宴。和やかな宴が続く。そのうち

。評論家の眼の紹介があつた。その後、恒例の入賞者の紹介に移る。初の書

道芸術院春華賞に輝いた半田藤扇さんへ

書道芸術院大賞受賞の松本泰子さん、

以下順次壇上で紹介。よろこびの声をお聴きした。

小竹石雲常務理事のことばにより宴を閉じた。

○表彰式、祝賀懇親会

崎井恵風・佐藤菜扇・麻生峰扇副部長をはじめ係の皆さん方の誘導のよさもあって、スマースに進行。お礼を申します。

○審査部

名越蒼竹審査部長のもと事務局、総務との連携もよく、審査、事務処理と

尾形澄神副部長はじめ部員の方々にお礼を申します。

○総務部

総務は学生展、院展とも作品、書類の搬入、整理、審査準備、撤回、搬出、

学生展作品の返送作業など大変でした。ベテラン委員の方々によって大過なく遂行していただいた。

東福青草部長、江本興舟学生展部長、小島孝予、森地桂鶴副部長はじめ委員の皆様にお礼申します。

○会計部

院展の台所を預かる会計部は全ての部署との連携を保ち、陰の支えとして

ご尽力。膨大な予算を緻密な計算により誤りなく処理していただいた。

白石和楓部長、東福青草副部長に感謝申します。

○運営事務局

本展運営の全てに関わり、膨大な事務作業はコンピューターを駆使。事務処理担当の拂り印シグスとの連携を密にして行つていただいた。各部の当番審査員並びに委員の人数割出しに始まり、出品個票の出力、搬入統計の集計、賞

の配分、審査結果の通知、陳列計画、出品者目録作成、作品配置、祝賀会座席配置など、総務・審査・陳列・祝賀会・表彰・会計とあらゆる部署との事務処理に関わつていただいた。

千葉蒼玄事務局長、前田龍雲・三浦鄭街事務局次長のご苦労に感謝申します。



会場風景

温泉銘（唐太宗）②

〈解説〉 貞觀22年（648年）、太宗51歳の書。1908年、フランスのポール・ペリオ博士によって敦煌石窟から搬出された残欠の拓本で、前半を欠くが見事な行書である。現在はフランス国立図書館に収蔵されている。温泉とは長安に近

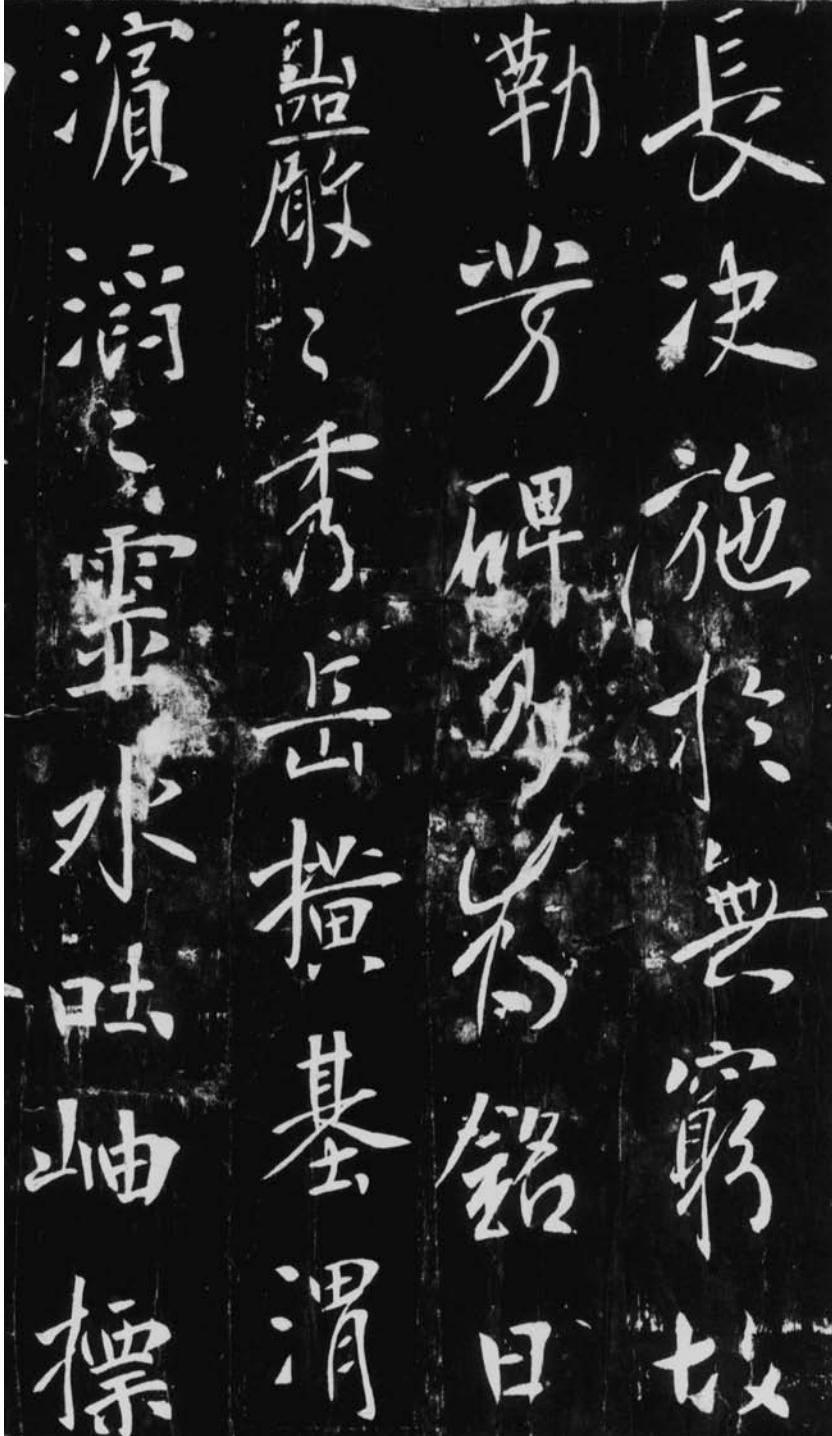
い臨潼県の驪山温泉のこと。ここに離宮を造営。その靈効や風物を叙した文になっている。太宗はしばしばここに行幸し、のちに玄宗が楊貴妃とともに遊楽に耽った場所としても有名である。

（編集部）

※落款を必ず入れる
署名、もしくは○○臨
(押印のみ可)

漢字研究部臨書課題

（半紙普通判・縦使用）左記の法帖より何文字臨書してもよい。



長決施於無窮。故／勒芳碑。乃爲銘曰。／巖々秀岳。橫基渭／濱。滔々靈水。吐岫標

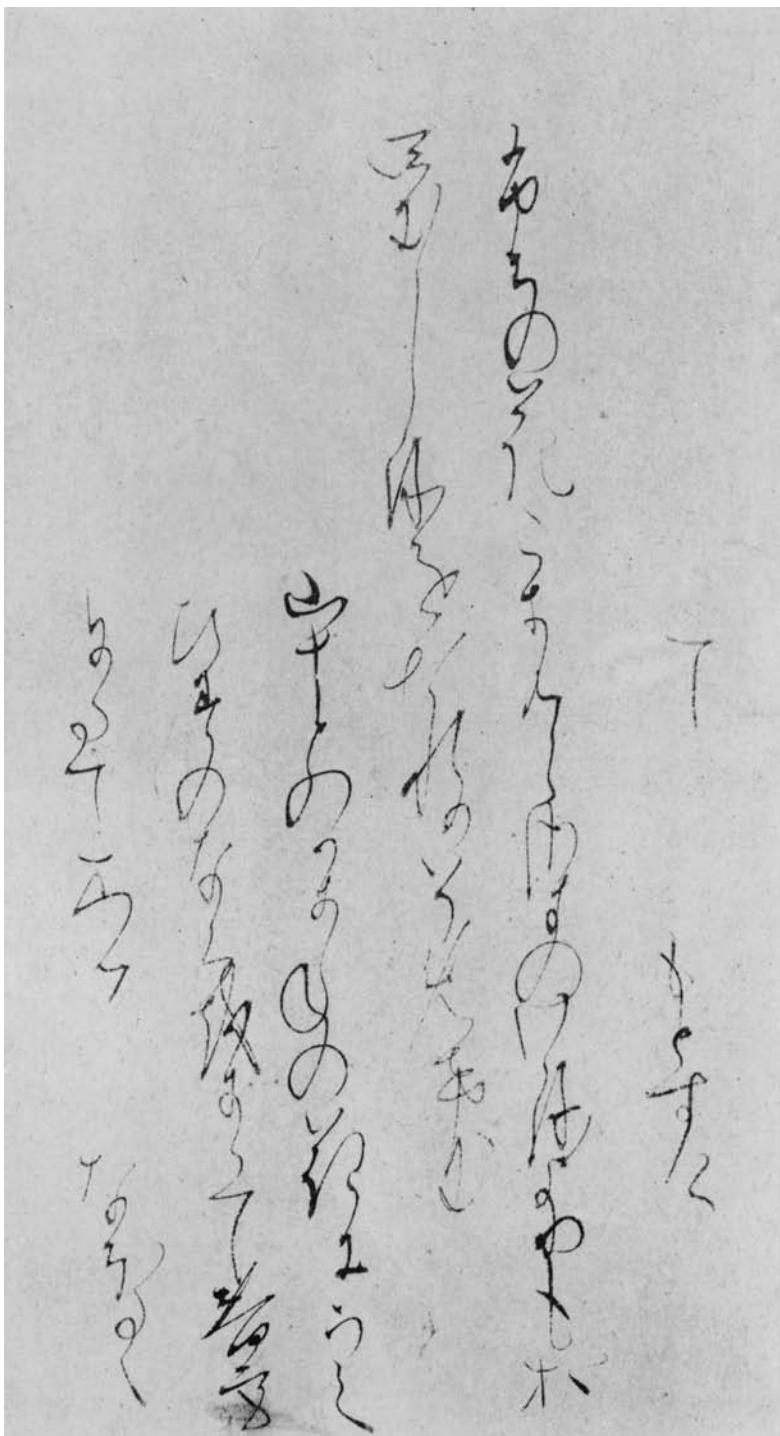
(84%縮小)

香紙切
(伝 小大君)

②

<よみ>

ふぢの花布
しづこころ支
山佐
ひす支
に爾支
た多佐
て支
まつ免
る希
かき可
を曾
き年
く免
の花利
へ介
て利
春宮於
なほ多
た多本



(93%縮小)

かな研究部臨書課題

- 競書作品は、左の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。
(全臨も可)
- 用紙は半紙普通判
(料紙可)
<たて長に使用>
別紙を裁断して貼付も可。
半懐紙は半紙サイズに切って使用のこと。

特別研究部臨書課題

- 毎日展公募サイズ以内・縦横自由
- 左記の掲載以外も可

※落款を必ず入れる
署名、もしくは
○○臨
(押印のみも可)

解説 小大君は、平安時代中期の女流歌人。系譜が伝わらず父母については不明である。父を重明親王・母を藤原忠平の娘とするが、確証はない。三十六歌仙の女房三十六歌仙の一人。はじめ円融天皇の中宮藤原媛子に女房として仕え、のち三条天皇(居貞親王)の東宮時代に下級の女房である女藏人として仕え、東宮左近とも称された。藤原朝光と恋愛関係があったほか、平兼盛・藤原実方・藤原公任などの贈答歌がある。

小大君を筆者としている記録はなく、近世の古筆鑑識家が、麗花集という歌名につられて名付けたと推測される。また、漢字に数・路・流・人・屏など誤字が多く、当時の女性は漢字を学ぶ機会がなかったため、漢字に慣れていない様子から女性の筆者と伝わった。

習い方解説 (二)

辻元大雲

對(対)日歌風 (対句集)
(日に対し風に歌う)

うららかな日差しを受け、そよ吹く風の中で口ずさむ意の4字句です。

標準的な行書表現です。あまり変化はありませんが落ち着いた安定感を感じさせる雰囲気です。

「對」は「対」の旧字体です。

新しい常用漢字体は書道字典には字體の扱いは判断に迷う場合があります。漢字作品などの場合はやはり書写体、または旧字体での表現が主となります。現代詩文書作品などは原文が新しい常用漢字体、活字体で発表されており、英文表記や記号なども含まれますのでややこしいですね。次号でもまた触れてみたいと思います。

對 日歌風 よみ(日に對し風に歌う)

書体=自由



習い方解説 (二)

小伏小扇

茶烟永日香
(茶烟永日香し)

(方回)



2ヶ月ずつ同じ書体を選択してみたいと思い、先月にひき続き虞世南の孔子廟堂碑を基に書いてみました。先月は4文字でしたが、今日は、5文字の語句を選びました。楷書の一点一画は形の上では連続せず区切って書きますが、空間の筆意によって生き生きとしたものになっています。注意したい点は烟の「因」、「日」、香の「日」の一画と二画の間をあけて明るい感じを出します。転折はふくらみを持たせつつおだやかに曲がります。波法はのびやかに書きます。

習い方解説(二)

下谷洋子

ほととぎす夢かうつつか朝靄の
おきて別れし晩の声
(古今集 読み人しらず)

今日は連綿について述べます。

かなの流麗な連綿は、単に繋ければ成り立つわけではありません。どう続いているから快く美しい流れが出るのか、古筆などでその条件を探すことが必要です。

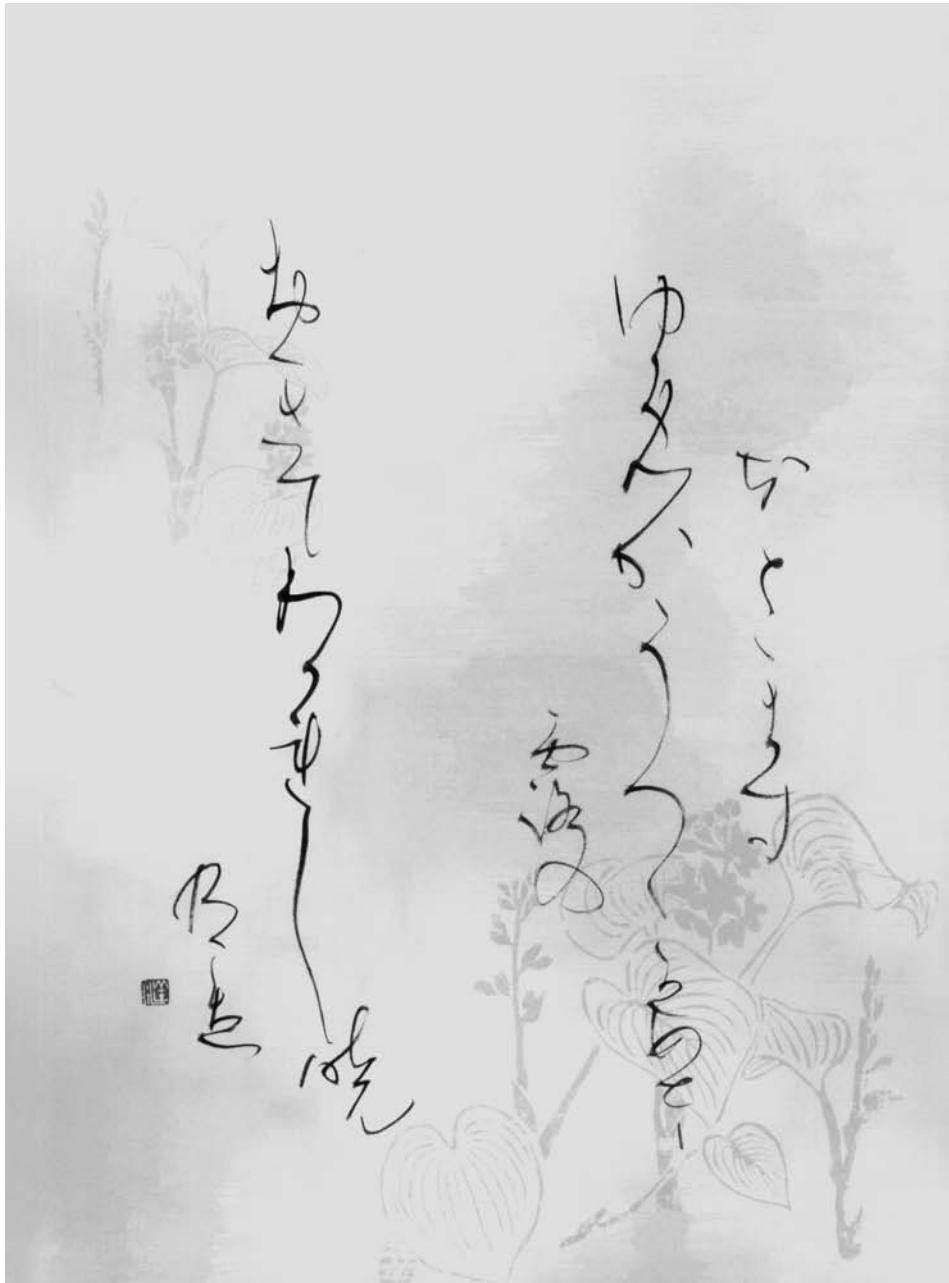
まず、連綿線の長さと方向をよく見て下さい。少しづつ変わりながら進んでいます。変体がなを入れることで滑らかになることもあります。また、時には実線でつなげず、間を入れながら連綿することもあります。

連綿線の長さと方向が同じでは規則的になってしまい、リズムといふのは出てきません。オリジナルを創るとき、無造作に続けてはいませんか?隣のページの高野切三種でも結構です。じっくり鑑賞し、一行の中で連綿線がどうに動いてバランスしているのか、取り敢えず“理解”です。

(別れた晩の時の女性の声を、悲しみの象徴とされたほととぎすの声にたとえた)

よみ方 ほ(本)とゝぎ(支)すゆめ(免)かうつゝか(可)あさ露の
おきてわか(可)れ(連)し晩の(乃)こゑ(思)

創作



かな規定秀級以下【六月十五日締めきり】用紙半紙タテ $\frac{1}{2}$ 〔料紙可〕(たて32センチ・よこ12センチ)

高野切第三種
(掲載写真縮小93%)

掲載写真のうたを全臨、または部分（二字以上の連綿）を臨書する。



よみ方
ひ(非)としれず(春)お(於)もふこゝろはるが(可)す(春)み
た(多)ちでゝき(支)みが(可)めにもみえな(奈)む(无)

かな条幅規定【六月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

天海矩子選書

習い方解説 (二)

天海矩子

スルハタマラシタヌカニモトヨリテ
ノミコトノクニヤシタヌカニモトヨリ

(西行)

横物は一行の文字数が少ないため、流れが出しにくい。そこで行に1～2文字添えてみる。あるいは連綿しやすい文字や変体がなを使用し、流れを作る。墨継ぎの個所を工夫したり墨量に気をつけ、すっきり仕上げましょ。

よみ方 時鳥ふ(布)か(可)きみ(ニ)ね(年)よ(餘)り出でに(一)け(氣)り(里)

時鳥ふ(布)か(可)きみ(三)ね(年)よ(餘)り出でに(一)け(氣)り(里)
とや(邪)ま(萬)の(能)すそ(楚)に(尔)こ(古)ゑ(恵)のおち(遲)く(久)る

創作

出品券
貼付位置

※よこ形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 【六月十五日締めきり】

用紙 小画仙紙半切

小竹石雲選書

習い方解説 (二)

小竹石雲



竹影掃階塵不動
(竹影を掃つて塵動かず、月輪沼を穿つて水痕無し。)

書体=自由

竹の影がさはしを払つても塵はたたず、月が沼に映つても水面にはその跡をとどめない。連綿せず単体で偏平な字形で、俗念妄想を絶したこの字句に合った表現で書いてみました。技巧が表に出すぎないよう柔な気持ちで筆を執りました。線はしなやかで、強調する横への動きのリズムを大切に書きました。

習い方解説 (二)

小浜大明

小浜 大明 選書

漢字条幅規定 秀級以下 【六月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切



大明



(張陳)

書体=自由

今月は楷書に近い行書体で書いてみました。一般的には「行草体」で作品制作することが多いと思います。行書の中に草書を取り入れることで作品に変化が生まれます。行書体のみでの表現はそのため難しくなります。線の肥瘦や文字の大小を多少取り入れることで変化とリズムが生まれます。又、1行の字数を変えるなどの工夫もしてみて下さい。

黄花香淡秋光老 落葉聲多夜氣清
(黄花香かうかうかわらわらあきひかり、落葉声多く夜氣清し。)

習い方解説 (二)

小島孝予

「おくのほそ道」の構成は、次の四部に分かれています。

第一部(江戸ー白河) 旅の禊

第二部(白河ー屎前) みちのくの

歌枕の旅

第三部(屎前ー市振) 宇宙の旅

第四部(市振ー大垣) 人間界の旅

孝予書

用紙=はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

※落款を必ず入れる。
(自分の名前を入れること)

暫時は滝に籠るや夏の初
裏見の滝は、滝のほこらに身をひそ
めて滝を拝むのでこの名がある。芭蕉
は「滝に籠る」と表現し、滝の水で身
を清め、滝の神にご加護を祈った。

江戸を発つて白河の関までは、長旅
のための禊です。次々に神社に詣でた
のは、みちのくの旅を前にして身を清
め、旅の無事を願うためでした。
(NHK 100分de名著 松尾芭蕉 おくのほ
そ道 長谷川櫂著より抜粋)

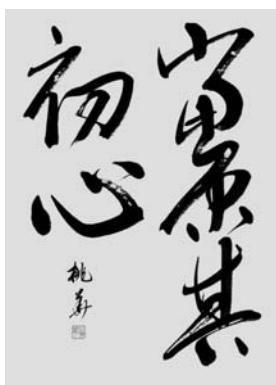
基本に沿つて正しく丁寧に楷書の文
字が書けたら、次に注意することは全
体の構成余白です。どんなに美しい字
でも、行がゆがんだり、字間行間のバ
ランスが悪いと美しさが半減してしま
います。全体のバランスは大変重要で
す。上下左右・行間の余白によって、
全体のバランスが決まってくるのです。
そして余白によって、作品全体が立体
的になってくるのです。

今月の

ホープ作品
各部総評

No. 635

漢字部 師範 熊谷 桃華
切れ味よくリズミカルにまとめて運筆をコントロールしたい。
◎漢字部總評 上級5文字表現や姿縮氣味。紙面に広がりある懐抱広い作を望む。下級楷書を含め運筆のリズムを大切に。（大雲評）



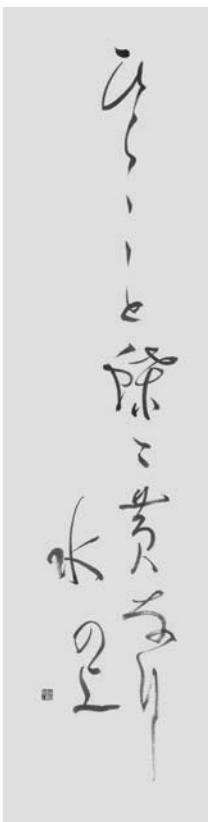
かな条幅部 二段 福田タキ子
少々潤滑不足だが、手本をよく解釈しリズミカルな大字がなです。気脈も自然でよい。雅印が重い。
◎かな条幅部總評 紙質と墨色の関係も大切、渴筆の出ない加工紙には工夫も必要。大小、太細等かなでは極端は避けたい。（洋子評）



漢字条幅部 師範 東 花子
線に深みがあり、字形も工夫が働き、独特的の風趣を生み出していく。横形式を生かした秀作です。

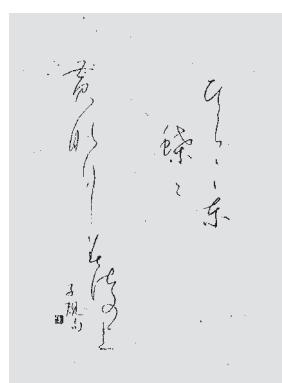


◎漢字条幅部總評 上級は横形式の課題で、配置・余白に工夫が窺え、創意に溢れる作品も見られた。（萬城評）



前衛書部 特選 佐々木 望
鋭い直線構成で淡墨とのバランスもよく雄大で充実した作で好感がもてる。印の位置に配慮を。
◎前衛書部總評 用具用材等の工夫は見られるが、更に自由な発想の展開を期待します。（仙草評）

現代詩文書部 特選 岡部 江里
無駄を削ぎ落し、飾らず素朴な作風。運筆リズムもあり余白が美しい。但し落款が粗末で残念。
◎現代詩文書部總評 落款は、作者名を入れてから、筆者が自筆で署名し、印をおすこと。（素雪評）



かな部 師範 五十嵐佳栄
作意を感じさせない巧みな筆遣いがスケールの大きな世界を創り、見る側を高度な鑑賞家にする逸品。
◎かな部總評 未だ半紙大に拡大用をノ変体がな奈と有の誤字多発。事前の準備を丁寧に。（明子評）

ペン字部 師範 浅野 弘美
重厚な線質で変化に富み切れ目なく流れる。書線が強いゆえ、行き明るく爽快感があり見事な秀作。
◎ペン字部總評 ペン選びが課題。字形はすばらしいが筆記具により線質が変化するので残念な作品が散見。用具に気配りを。（龍雲評）

今月の

特別研究部優秀作品(特選)



大町菜円書

174×53cm

前衛書

(青蓮)

大町菜円

「初夏」

- ◆書き始めの心の高まりを一気にはき出す勢いで、筆の動きが無理なく表現されて素晴らしい作品。 (倫子評)
- ◆リズムに乗った潤渴が美しい。瞬間のヒラメキでこれがけの動きがしかも自然に出来ることに感服。 (洋子評)
- ◆墨色の美しさに強く惹かれる。特に滲みが澄み切って深い。筆の動きも大胆で躍動し生命感溢れる。 (萬城評)
- ◆上部の墨溜りが下部の躍動する線と対照的で動きはあるダインミックな作。中央部ややもたついたか。 (大雲評)



市川紫泉書

173×61cm

現代詩文書
(八戸)

市川紫泉

「俵万智の歌」

◆歌意に添った表現の温かさに惹かれた。少々判読し憎い文字もあるが、読んでみたいと思わせる佳作。

(洋子評)

◆漢字、ひらがな、カタカナ交りの文を独特のリズムで調和させている。終末部やや押さえ過ぎた

ため上げている。余白も効果的。

(萬城評)



千葉華紅臨

35×136cm

臨書 (蓮紅)

千葉華紅
「藍紙本万葉集」

- ◆藍紙本本来の姿を丁寧に臨模した労作。紙質と墨色の関係も整い、莊重感を高い響きで引き出す。 (洋子評)

- ◆筆管を右に傾け、側筆を多用した藍紙本萬葉集獨特の個性の強い書風を捉えた感性の鋭敏な臨書。

(萬城評)

- ◆藍紙本の漢字とかな表現の特長をよく取らえている。やや粗さがあるが、強い筆致のリズムを買う。 (大雲評)
- ◆かなのは麗な動き。淡く浮き出て来るような感じが素晴らしい。日々の努力の結果がここに集結した感。

現代詩文書 (倉原) 金濱 珀 燐

「崇の詩」



180×60cm

◆口ずさんで作品を見る。私の心中で字がはずみをつけて舞っているような心境にさせてくれる作。

(萬城評)
◆春の美しい光景が述べられた叙情的な詩文を、一字一字表情を工夫しながら書きつづり、温か味ある作。

(萬城評)

◆表現過剰にならずにメリ張りをつけ、書き手の優しく穏やかな面影が透ける。言葉が生かされて趣を放つ。

(洋子評)

金濱 珀 燐 書

臨書 (大雲) 宮原香扇

「風信帖」



174×55cm

◆柔毫筆で軽妙な筆法で書き、柔軟な渴筆の線が美しい。忽恵帖を創意を加えて臨書し成功している。

(萬城評)

◆速い速いの呼吸が筆の動きに調和し、細い線太い線とのバランスを引きしめている。まとまりある臨書作。

(倫子評)

◆濃墨長鋒を大様に操り、意臨的に表現、軽快でありながら渴筆の深さが魅力。大字臨書の好例かと…。(洋子評)

◆忽恵帖のスピード感ある線をよく把握し、リズム感ある臨書。やや流れすぎの線あり、更に努力を。

(大雲評)

宮原香扇臨



53×182cm

漢字 (大雲)
江本興舟

江本興舟

「李夢陽詩」

漢字 (大雲)
江本興舟

江本興舟

「李夢陽詩」

◆2本の筆を用いた渴線が、独特の変化美を生み、作品が新鮮な趣きに仕上げている。

(萬城評)

◆白い紙にくっきりと浮き出すような墨色、渴筆も呼吸の流れを見せていて、まとまりある立派な作。

(倫子評)

◆後半の章法がやや散漫にも思いますが、大胆な動きで多様な線を演出し、変化が楽しめる。白が映える。(洋子評)

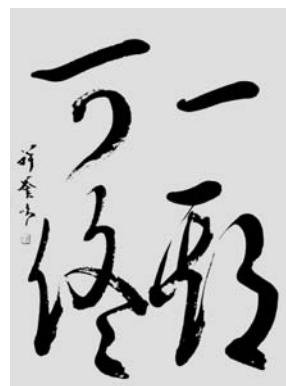
(大雲評)

創作の部(41点)	
漢字	— 10点
かな	— 2点
前衛	— 10点
篆刻	— 1点
篆刻の部(29点)	
漢字	— 27点
かな	— 2点
臨書の部(29点)	
漢字	— 27点
かな	— 2点
特選候補者	
漢字	
創作の部	
千葉 影山 扇葉	
八街 三浦 鄭街	
現代詩	
東実 吉田 真理	
秀恵 阿部 雅悠	
蓮紅 大友 紅蓉	
四谷 野口 加奈	
「前衛」	
「漢字」	
英峰 吉瀬 彩雨	
咲舟 仲村 利光	
麗澤 富田 瑶翠	
千葉 大内 燐軒	
千葉 竹浪 叙舟	
総出品点数	70点

漢字研究部
(風信帖)

選評 小伏小扇

今月のホープ作品



香味祥誉



漢字研究部 総評
忽恵帖は、草書が多く使用されていますが誤字のある作品は、ほとんど見当たらず感心しました。

スピード感に溢れた作品で、すっきりとし
てあか抜けているさまは忽恵帖の特徴をよく
習得しています。細部まで観察し、思い切り
のよい運筆は、白を一層輝かしています。力
強く美しい線です。

◎漢字研究部 総評

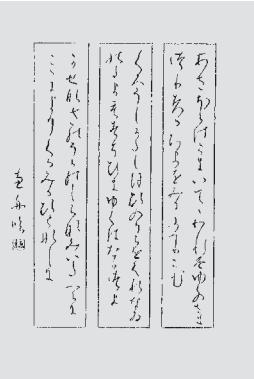
忽恵帖は、草書が多く使用されていますが
誤字のある作品は、ほとんど見当たらず感心しました。

字の形を学ぶことはあまり難しくありません
が、筆圧の変化によって、点画、長短、疎
密が出来、字に動きが生じていることに注目
してください。臨書する箇所を吟味すること
も大切です。毛筆の特性を生かした美しい線
の追求が学習の目的だと思います。

かな研究部
(藍紙本万葉集)

選評 田村 澄子

今月のホープ作品



北村 惠舟

◎かな研究部総評
藍紙万葉は3回目、続けて書くことに自信ができ
たのでしょう。とてもよい作品が、多かったです。
お見事です。
古筆は、書く事で、好きになります。

かな研究部 特選 北村 惠舟

かな研究部成績表

煌道香	京真紅	愛翠理惠	彩佳雅
月石舟	子理霞	石玉子	雨栄泉
澄旭Aう大竜松 春老Iる阪泉村 秀	幕椿皓生こ書高大彩光蘭 張翠映大こ泉真阪 昭鼎	千石紅や東玉石生秀英こ竜幕 ま実松習大水峰だ泉張	特選
宇岩伊飯天浅青 井藤高羽川木 きき 楠よ寿幹恩な玉 麗子子生江枝	高遠重石加都岩池大嶋 橋藤信丸上田嶋 ひひ 賢裕礼さ翠ど郁荻信由 雲楽映子陽り子溪子香	飯紫犬須伊吉橋松田東田本丸 富澤理吉瀬五十嵐雅恵 光煌道香京真紅愛翠玉子雨栄泉舟	北村 惠舟
岩沼 佳	華紅硯 祥苑水 雲I葉か松せ扇春泉舟阪雲泉舟大書春泉陽雲鼎水祥田井月真か	大A千た玉は詢澄上石大大上竜弘生薏澄竜蒼大蘭秀華蒼高清高た 山茂宮三堀藤平浜長野浪中内徳積知泉波佐坂齋後込高川門加小梗江梅 崎木澤嶋切村山野谷村川尾藤田田野水谷野本藤藤山武崎脇藤野田山津佳 正子	澄竜う和N H正華雲泉
松遊も高 雲く陵 入	千や春こ澄玉幕千澄木泉竹や幕東泉千も竜翠春大玉大や上竜生四正竜や竜千木彩鬼竹東玉 葉ま汀だ春川張葉春曜会扇ま張向会葉く泉柳汀阪松阪ま泉泉大谷華泉ま泉葉囉 高扇峰葉	湯山富宮宮湊松松増堀北船平林畠永戸戸近田田田田田高鈴新佐佐櫻齋後河黒岸神河龜岡字植今井伊板磯石 本口野川内 島重田江條津田 山田村部谷池原中中中玉草木條藤藤野江田田岡井 田田村閔上藤垣貝橋 澤文藤勇 華庵連介	澄竜う和N H正華雲泉
松 村	た昌春硯竹 か苑光水美 崎阪原書桜か島扇崎大阪香島江阪泉氣峰溪阪会阪原春明桜	禮律津洋幸美翠華幸靖裕美玉芝時博藤つ柳蕙良耶美哲代三詠麻龍つ良蕙幸東典星芳佐春美貴心英良青清知 子枝子平子舟景秀泉子扇和華香子舟風江芳子子衣枝子子郎子美貞え泉子穗子子華枝春泉華二佑鳳羅子	澄竜う和N H正華雲泉

鹿塙猿佐佐佐櫻酒酒後紹小小小小河熊工北岸菊川金加香片香小小押奥小大大大梅梅白岩岩今猪井伊市石石生荒新浅
田崎渡藤々々田井井藤野林林島口野谷藤又本池本元岡藤月野川高野高山山森西石原木井根崎井又上藤川黒川駒木井川
世志明冬宣初志雅智知惠喜遊雅萩夕智白紫香欣春萩美南茱萩龍涼美翠萩西純翠輝喜一星虹裳綾惠洋溪理靜悅紫春洋晴萩洋藤君
江子華右香子芳舟子子萩山子江佳子董蘭子峠茜子汀仙美惠規代溪光鈴子峰代美祥祥山乃峯子仙扇香子泉台子洞花子雪子

芳大京昌青風書蓮東己玉あ生墨高書華蓮詢大前生澄 大前秀秀大 高遊桂雲土艸大白春た立土佑樹た大青秀土顧A八
遷蘭阪橋苑峰書游紅伯末川か大宣崎徑仙紅扇阪橋大春 阪橋水歌阪 嶺 嶺 雲泉溪氣玄阪横汀か精氣希原か阪峰水氣線I雲
外130渡脇吉吉遊遊遊山山森本村真松前前本程細別藤深廣比春花長橋根根西長中仲仲中富渡樋千田田高高平砂杉志清七
名氏名連 田田田佐佐佐本根本吉田庭浦田川野田川府本堀地田山里谷本本津澤井村西田津澤子泉田中中橋司 川田水水條
信華佑翠光香一紅真美悦明タケ玉幸栄美惠静信喜清美琴勝智和都雅飛彩久笙游芽雅萩白紀雪白梢志惠 杏洋祥起紀裕
溪秋子綾治風榮雅紀子子香満ミ江子子雪子子子惠洗幸清美子子子龍峰仙泉溪生子彩雲子董香鈴翠朋泉桜華子風子子